

作品制作する美大院生が
研究計画書を書くために－3
～ 質的データの収集と分析・研究計画書の形式～

女子美術大学大学院美術研究科
非常勤講師：石井拓洋

2018-7-4
大学院講義 前期第11回

このスライド中の記号は、それぞれ下を表わします。

- ・「 」 引用文
- ・〈 〉 術語、一般名 (common name) 、語句の強調
- ・『 』 書名、雑誌名、作品題名。引用文内の引用文。
- ・[] 出典
- ・※ 私的な解釈・考えを多く含む記述

4-1-1 用語の整理 1 （研究的視点を基礎付ける哲学用語）

- 〈認識論〉 epistemology

- 人は外界をどのように認識できるのかを問題とする議論

〈実在論〉 realism （ここでは近代以降の意味）

認識論上の立場の一つ。事物は主観とは独立にそれ自体で定まった在り方をしており、人は事物を客観的に直接認識可能とするとの立場。
〈素朴実在論〉など。ここでの対概念は〈観念論〉。

〈観念論〉 idealism

認識論上の立場の一つ。事物は主観の在り方に応じて存在しており、人は言語などによる表象によって間接的に事物を認識するとの立場。

4-1-2 用語の整理 1 （研究的視点を基礎付ける哲学用語）

- 〈存在論〉 ontology

- この世を成り立たせている根本的な存在を問う議論

〈実体論〉 substantialism

〈存在論〉を前提として現れる各立場の総称。〈唯物論〉や〈唯心論〉など。〈実体〉とは、自律的に存在し、他の事柄の在り方に依存することはないもの。

〈関係論〉 relationalism

「関係こそが第一次的な存在」とする立場。「実体論から関係論へ」とする20世紀以降の思潮において、現代哲学での有力な立場。

西欧「近代主義」の特徴

- 西欧中心主義 eurocentrism

西欧こそが世界で最も進んだ文明であるという考え。

- 要素還元主義 reductionism

物事の真理や本質をさぐるには、余計な要素を極力排除して、単純にすべしとする考え。〈オッカムの剃刀〉。

- 進歩主義 progressivism

新しいことならば、より真理や本質に近づいているとする考え。

- 人間中心主義 anthropocentrism / humanism

たとえば、人間を 自然環境・生物 など 万物の中心とする考え。

- 機械論 mechanism

人間は科学によって自然を制御することができるとする。

- 実在論 realism (⇔ 観念論)

人間の能力は、主観の外側にある外界を、ありのままに認識することができるとする。客観主義の前提となる考え。

- 実体論 substantialism (⇔ 関係論)

この世を成り立たせている根本的な存在にして、他に依存せず自律的な真理や本質の存在を信じる。

5-2 量的研究 (仮説検証型) は、 〈西欧近代主義〉を前提として可能となる

- 〈実体論〉を前提として、〈真理〉や〈本質〉の探究が可能となる。
- 〈実在論〉を前提として、〈客観〉の追求が可能となる
- 量的データと統計学的処理で、〈仮説〉が事前に立てやすくなる
 - 統計学の使用を可能とするための仮説の形式が定まる (因果関係を想定する立論)
 - 仮説の形式が定まるので、仮説が立てやすい。問いも立てやすい。

4-1-3 用語の整理 2 (研究活動に関する用語・重要!!)

- 〈量的データ〉 quantitative data

〈定量データ〉

四則演算可能なデータ。数値。

⇔

〈質的データ〉 qualitative data

〈定性データ〉

四則演算不能なデータ。文字等。

〈量的研究〉・〈定量研究〉 quantitative research

目的は物事にある因果関係（原因）の〈有無〉を明らかにすること。

手法は、ある2者間に因果関係があるとする仮説を立て、検証には物事を数値化した量的データを用いて統計学で説明する。仮説検証型。結果として因果関係の〈有無〉がわかる。

〈質的研究〉・〈定性研究〉 qualitative research

目的は物事の〈意味〉や〈プロセス〉を明らかにすること。

手法はインタビュー・観察・文献により得た最終的に文字となった質的データを用いて〈カテゴリー分析〉を行う。作品研究なら〈批評〉を行なう。つまるところ、文章精読によって抽象化し、〈概念モデル〉図をつくり、仮説として論文にまとめる。

5-2 量的研究 (仮説検証型) は、 〈西欧近代主義〉を前提として可能となる

しかし、もし、〈西欧近代主義〉への信頼が揺らぐなら、
量的研究（仮説検証型）以外にも視線が向く

- そもそも〈実体〉・〈本質〉・〈真理〉の存在への懐疑
- 〈客観主義〉への懐疑
- 〈関係論〉的モデル、〈観念論〉的 (記号論的) 視座

人間は世界を正しく認識できるのか？

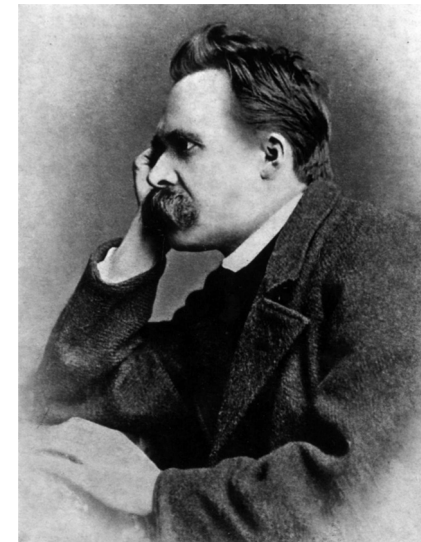
- ・ フリードリヒ・ニーチェ Friedrich Nietzsche (1844-1900, 独)

人において〈完全な認識〉はなく、〈客観世界〉もない。
まして、外界自体が向上していくような〈歴史〉的目的性はない。
外界はカオスであり、人は、各自の利益に基づき、
各自にとって 都合良く、このカオスを解釈しているだけだ。

→ 各自の利益 = 〈権力への意志〉

参照：ニーチェ 『権力への意志』（妹により死後刊行）

※ 〈歴史〉的目的性 = ヘーゲル的世界観



人間は世界を正しく認識できるのか？

- ・ エドムント・フッサール Edmund Husserl (1859-1938, 奥)

「正しさ」は、それ自体として、客観的に存在するのではなく、
多くの主観の間での(多くの人との間での)相互理解によって導かれる。
つまり、「正しさ」の定立は、主観と客観の一致への試みではなく、
主観の間で、知覚の妥当をつくる営みである。「客観」というものはない。

参照: 竹田青嗣「6.現象学の発見」『自分を知るための哲学入門』(ちくまライブラリー) p.59

→ 〈現象学〉 Phenomenology

→ Q. なぜ、主観の間で、相互理解が可能なのか？

A. 人は 外界を 同じ〈言語(構造)によって表現〉しているから。
その言語構造自体を、もとより 人は「了解」で体得しているから。

→ 「質的研究は、その基礎付けを、特に現象学に頼っている」

末武康弘ら『質的研究入門:「主観性を科学化する」』 p.24



人間は世界を正しく認識できるのか？

西欧近代主義の
綻び

- フェルディナン・ド・ソシュール Ferdinand de Saussure (1857-1913, 仏)

人間の観念は自由ではなくて、**言語規則の範囲で制限** されている。

ex.) 虹の色

日本 (赤、**橙**、黄、緑、青、**藍**、紫) 7色

ドイツ (赤、黄、緑、青、紫) 5色

→ 自国語の**単語の有無で世界認識が左右**されてしまう。
つまり、それほど、人間の認識とは**自由ではなく**、
また、物事を**正確に語る**ことができない。



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ferdinand_de_Saussure_by_Jullien.png

※ 〈实在論〉、〈実体論〉への懐疑。

※ 〈観念論〉、〈関係論〉への移行。 → **〈記号論〉・〈構造主義〉**へ。

6-3 質的研究 (仮説生成型) は、 〈西欧近代主義〉批判から、新たな「研究上の問い」がうまれる

- 〈実体論〉への懐疑により、原因よりも、文脈や意味への問いへ
- 〈実在論〉への懐疑により、主観／客観の無効。主観への着目。
 - 人が、ある事象を、言語によって解釈していった、そのプロセスの解明への移行。
 - 「意味」や「意義」は、「言語」によってしめされる。
- [質的データ = 文字] の〈精読〉による分析 → 生成させる仮説へ
 - 文字資料を分析しつつ、思考を文字化しながら探究。

7. 質的研究の研究計画書の形式 (インタビューや参与観察でデータを取るタイプ)

1. 問題の背景

2. 問題提起と 研究目的 (何を明らかにするのか)

3. 先行研究の批判的検討

4. 研究方法 (← ※ 最も悩むのがこの記述。特に「分析」)

4-1. 対象設定 (人や集団 / 対象時期 / 設定した理由)

4-2. 調査方法 (インタビュー, 観察 / 文献研究 /)

4-3. 分析方法 (逐語化の上、帰納と演繹を駆使した カテゴリー分析)

4-4. 倫理的配慮

5. 研究成果の期待される効果

7. 質的研究の研究計画書の形式 (インタビューや参与観察でデータを取るタイプ)

計画書内の「研究方法」を記述するためには、
「調査方法」や「分析方法」に関する
〈学術用語〉を把握する必要がある。

e.g. 〈半構造化インタビュー〉、〈カテゴリー分析〉など

8-1. データ収集方法 〈インタビュー〉

▪ 〈インタビュー〉

- 〈構造化インタビュー〉 : 質問事項、順序、口調を事前に決定
- 〈非構造化インタビュー〉 : なにも事前に決定しない。
- 〈半構造化インタビュー〉 : 大枠は事前に決めるが、柔軟に対応

• ノートをとる（質的データの完成）

• 映像、音声などの収録

- 〈逐語化〉（文字起こし）して 〈逐語録〉をつくる（質的データの完成）。

8-2. データ収集方法 〈フィールドワーク〉 〈行動観察〉

- 〈フィールドワーク〉

- 全ての野外調査を指す（対象は人のみならず、火山の定点観測なども）

- 〈行動観察〉（フィールドワークのうちの一つ。〈他者〉的な集団が対象）

- 〈参与観察〉： 集団の一員として参加して、内部から観察する。

調査方法としての〈エスノグラフィー〉と同義

- 〈非参与観察〉： 集団には参加せず、外部から全体を観察する。

- 併用観察： 参与 - 非参与 を併用して観察する。

- 〈フィールドノート〉の記述。 映像、音声などの収録 と〈逐語化〉

9-1. データ分析 分析の目的

- ・ 分析の目的とは？

- 〈質的データ〉に基づき、

- 研究目的をかなえる「科学的知見」を導きだすこと。

- ・ 「科学的知見」とは？

- － 〈再現性〉（誰が調査しても同じ結果が得られること）

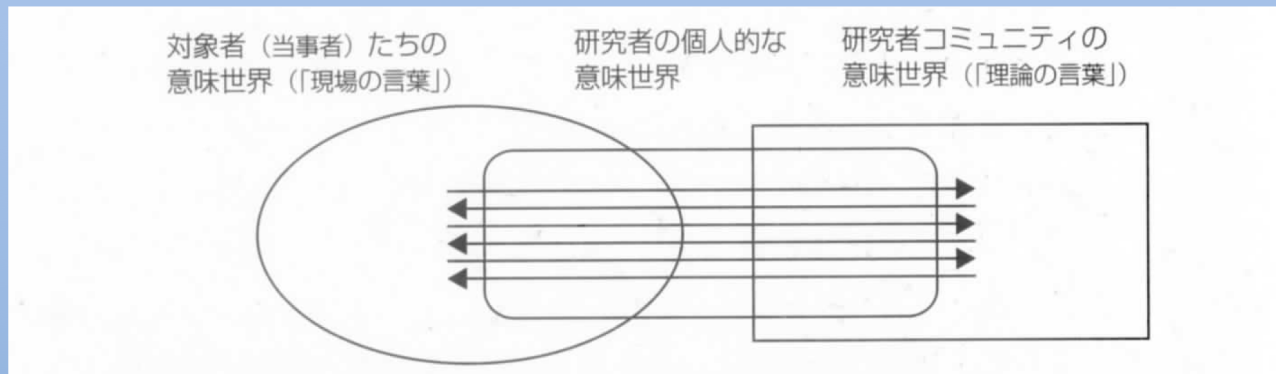
- － 一般性（その知見が他の事例にも適応できること / 理論化できること）

- － 先行する科学的知見との関連を有すること

9-2. データ分析

「現場の言葉」から「学問の言葉」へ

- ・ 現場世界 と 学問世界 をつなぐ 研究活動
 - 「現場の言葉」である〈質的データ〉を、「学問の言葉」へと 翻訳する。



[佐藤 , p.28]

- ・ 〈帰納〉 induction と 〈演繹〉 deduction 両方で〈質的データ〉を 分析する
- ・ 〈帰納〉 = 「現場の言葉」 = 「データそのものに語らせる」
- ・ 〈演繹〉 = 「学問の言葉」 = 「研究的視点」 (これを学ぶ必要あり, 大学で学ぶこと)
 - e.g. 記号論 (意味論探究のため)、思想 (構造主義 など)、 批評理論、、、、

9-3. データ分析 〈カテゴリー分析〉と 〈コーディング〉

- 〈カテゴリー分析〉
 - 要素を内容的に分割して、グループ分けして、各グループの関連を考察。
 - 〈質的データ〉を内容的に分割し、各内容を抽象化し、「見出し」をつける。
 - 「見出し」= 〈コード〉をつけること = 〈コーディング〉, 〈コード化〉
- 〈コーディング〉は およそ2段階 （およそ 2段階に抽象化する）
 - 1. 〈オープン・コーディング〉 抽象化1段階
 - 2. 〈焦点化コーディング〉 抽象化2段階
- 〈グラウンデッド・セオリー・アプローチ〉 (GTA), 〈KJ 法〉
- 具体的所作 は 配布別紙参照 （ [佐藤 , pp.100-101] ）

9-4. データ分析

〈コード〉code, 〈コーディング〉coding

- 多様な意味を持つ語 〈コード〉code
 - 〈記号論〉では 記号化や記号解釈のための規則、慣習。
 - 情報の世界では、「プログラム」or「数値データ」のこと。
情報の世界での「コーディング」 = プログラミングする、符号化する
 - 音楽では和音
- 【語源】 ラテン語 “codex” → 仏語 “code” → 英語 “code”
 - 語源としては「法典、規約、慣例／信号／暗号」の意味

『スタンダード英語語源辞典』大修館書店、p.98

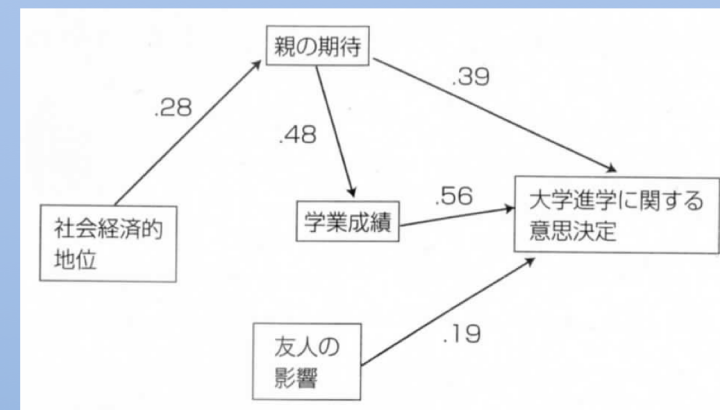
9-6. データ分析

考察方法としての「事例とコードのマトリクス」と「パス図」

- ・〈コード〉（抽象化された内容をしめす見出し）間の関連を探る手法の一つ

表 8-1 要約版の事例 - コード・マトリックス

	スタッフの認識	患者の認識・ 情報入手の戦術	スタッフの対応	……	死の迎え方	認識文脈の移行
事例 1 (佐藤)	△年○月○日山 本医師の診断： 余命 2, 3 ヶ月。 中村看護師長から ナースに周知。	阿部：石川氏病 室変更時から回 診時に物問いた げに。	吉田：権威主義的 そぶり。話題を避 ける。	……	佐藤氏妻：いまだ に自問。遺書の準 備や落ち着いた対 応の可能性。	阿部：突然昏睡状 態で最後まで知ら なかった。
事例 2 (鈴木)	加藤：○月○日 の会議で末期ガ ンの結論。ご家 族にも告知。	◎年○月○日： 病室模様替え・ 娘さんに化粧品 依頼	井上：後輩ナース に模様替えなどを 話題にすることを 指示。	……	(データ欠損)	(相互虚偽→オー ブン) 加藤：退院後 のドライブの話が きっかけ。
事例 3 (高橋)	小暮：3 回目の 入院。スタッフ も覚悟。	小林：点滴拒否 「枯れていくよう に」睡眠薬を希望。	中村看護師長：そ っとしておく半面、 それとなく話しか けることも必要。 気配りは難しい。	……	小暮：「枯れてい く」という口癖。 家族、弁護士と落 ち着いて話し合い。	山本医師によると、 2 回目からかなり 自覚。
事例 4 (田中)	□月○日会議で あと 2 ヶ月程度。 看護師長から周 知。	(データ欠損)	森医師：新米で不 得手。山本医師か ら看護師長からも 注意。	……	林：退院後の仕事 再開予定。資料持 ち込み、携帯連絡。	三宅：容態急変で 最後まで認識無しか。 森医師の言葉にも 気がつかず？
事例 5 (渡辺)	橋本：スポーツ マンタイプで後 半年は信じられ ず。	前田：医学書を持 ち込み。医師・ 看護師に質問攻め。	井上：冗談好きだ ったのがふさぎこ むように。話題を 避け、他のナース にサイン。	……	小林：医学書でう すうすう気がつく？ ご家族の意向で知 らせず。	松本：同室佐藤氏 の件でショック受 けて以来、疑問を 持ったか。
……	……	……	……	……	……	……
事例 33 (伊藤)	△月○日会議結 果は週明けに周 知。病巣が広が り深刻。	吉田：結果的に は良かったか。	(データ欠損)	……	森：父上(医大先 輩)の強い意向。 明るい気持ちで最 期を。本人はどう か。	(閉鎖→相互虚偽) 最後は痛み止め多 くて自覚か。父親 への気遣い。父親 と退院後の話など。



↑「パス・ダイアグラム」の図解化
[佐藤 , p. 67]

←「事例とコードのマトリクス」
[佐藤 , p. 115]

10. データ管理 〈カテゴリー分析〉を行うために

・ 研究 データベース作成 の必要性

- アプリでも、紙ベースのカード(「京大式カード」)でもなんでもOK。
- 習慣的に データベースの内容を、頻繁に眺める。
- データベース内で、〈コーディング〉して、結果として〈カテゴリー分析〉をおこなう。
(抽象化して内容の見出しをつける→ 見出し間の関連性を探る)
- 【重要】 関連性から意味を探る。
- 後日(研究終了後、数年後)に 読んでもわかるように、丁寧に記述する。
- 出典ページ、日付を明確に記述する。
- 〈コーディング〉された データベースこそ 研究そのもの。

11. まとめ

- データベースで〈質的データ〉を蓄積し、 日々、それを眺め、各内容を抽象化した「小見出し」=〈コード〉をつけ、全「小見出し」をさらに抽象化して、「大見出し」をつける。
- 全「大見出し」同士の 関係性 =〈概念モデル〉 をみつけ、それを 〈パス・ダイアグラム〉 などで 図解化する。
- 具体的な使用手段、体裁 は問わない。

これが、広義の 〈質的データ〉 の 〈カテゴリ分析〉

参考文献

【質的研究の分析について】

- ・ 佐藤郁哉 『質的データ分析法：原理・方法・実践』 東京：新曜社、2008年。

【質的研究全般について】

- ・ 末武康弘ら『「主観性を科学する」 質的研究方法入門：TAEを中心に』
東京：金子書房、2016年。
- ・ 中蔦洋 『初学者のための質的研究26の教え』 東京：医学書院、2015年。

【〈コーディング〉= 内容の抽象化 の、さらなる知識のために】

- ・ 川喜田二郎『発想法—創造性開発のために』東京：中公新書、1967年。
- ・ 梅棹忠夫『知的生産の技術』東京：岩波新書、1969年。